

# 校長室だより(No.6)

令和3年5月26日  
丹波市立黒井小学校長  
谷口 千尋

## 「学びのあしあと」

アサガオの種まき後の水やりの様子



今回の学習指導要領の改定では、これからの社会において自らの課題に立ち向かい、解決していくには、これまでのように、知識を身に付けるだけでなく、それをいかに活用していくのが大切で従来の学習指導の中心だった「何を学ぶか」に加えて、「どのように学ぶのか」や「何ができるようになるか」といった視点が盛り込まれているのが大きな変更点だといえます。

一年生、二年生が学習する、生活科の学びは各教科の学びと密接につながります。「どのように学ぶのか」や「何ができるようになるか」といった視点からも、教科横断的にとらえて、学びと学びをつなぐ指導が大切になってくると考えます。

自立への基礎を養うことがこの生活科の目標として設定されており、様々な活動や体験を通して、子どもたちを取り巻くまわりの人々、社会、自然などに気付かせ、自分との関係やかかわりについて知ったり、考えたりする学習を進めています。豊かな体験をとおして自分とのかかわりで学習をすすめ、自分自身についての理解を深め、様々な習慣や技能を身につけることによって、自立につなげることがもめられている教科です。

一年生の子どもたちは、今、アサガオの観察をしています。この体験を通して様々なことに気付いていることだと思えます。この気付きはアサガオに対する子どもたち一人ひとりの認識のことですが、活動を繰り返したり対象とのかかわりをより深めたりすることにもなって、一つ一つの気付きが関連付けられた気付きとなったり、対象への気付きが自分自身への気付きとなったりすることが期待されます。アサガオを育てる活動を行う中で、自分の栽培するアサガオへのかかわりを深め、アサガオの成長への気付きが、アサガオの世話を続けることができた自分自身の成長への気付きとなることが考えられます。また、成長の度合いや葉の色、花の色、大きさの違いを友だちのものと比べることによって多様性への気付きもできてくるものと考えます。

5月26日 アサガオの観察の様子



生活科の観察で気づいた事をかいた記録